

# 知ってください 子ども用車椅子

のこと



## 『折りたたみません』

これは車椅子です。座る姿勢が取れないなどの身体的特徴から、車体を折りたたむことは容易ではありません。

## 『重量があります』

車椅子自体の重量に加え、医療機器を搭載している場合もあります。車体を持ち上げて大きな段差などを越えることは非常に困難です。

## 『子ども用車椅子マークもあります』

「子ども車いす」や「子ども用車いす」などと表示したマークを付けている方もいます。

## 周囲の方へ

- 街なかで見かけたら、そっと見守りましょう。
- 困っている様子が見られたら、声をかけてみましょう。

これは子ども用車椅子です。病気や障害が理由で、**“これがないと移動できない”** 子どもたちが使用しています。みなさまのご理解、温かい配慮をお願いいたします。

※ベビーカーを車椅子と同じ目的で使用している場合もあります。

## 現状と課題

- 子ども用車椅子について、子どもが使用していると、その外観からベビーカーと誤認されてしまうことが多く、電車やバスの車内で折りたたむよう周囲から言われる等の事例が発生している。
- 子ども用車椅子を使用しなければ外出できない肢体不自由児がいるが、その認知度は低い。
- 昨年国会において、子ども用車椅子に対する理解が低いことから広く周知していくことが必要である旨発言があったところ。

## 対応状況

- 昨年4月、子ども用車椅子の存在について、利用者等に対し周知を行うなど、当該車椅子に乗ったまま円滑に各種施設・設備等を利用出来るよう、ご理解・ご協力を依頼。
- 国土交通省において、子ども用車椅子についての理解・配慮をお願いするポスター（B1版（縦）、B3版（横）の2種類）を作成。



## 配布実績

- ポスターB1版（縦）6,080枚、B3版（横）36,350枚を送付。9月以降、事業者等の協力のもと、駅や車内等にて、掲出を実施。

## 記事実績

以下のとおり、記事にも取り上げられ、知ってもらおうという観点からは、一定の成果はあったものと考えております。皆様におかれましては、ポスターの掲示について、引き続きご協力頂きますようお願い致します。

### 子ども用車いすに配慮を 国交省が啓発ポスター

8/31(土) 16:59配信



国交省が作った子ども用車いすの啓発ポスター

子ども用の車いすに温かい配慮を。国土交通省は、病気や障害のある子どもが使う車いすへの理解を広めようと、啓発ポスターを作った。形がベビーカーと似ているため間違われることが多く「まずは存在を知って」と担当者。全国の主要鉄道会社やバス会社などに配布し、掲示を呼び掛ける。

子ども用車いすは重く、折りたたむのも難しい。ベビーカーと誤認され、混雑する交通機関の車内で「たたんでください」と言われたり、障害者用の駐車スペースの利用を断られたりするケースも。

ポスターでは、ベビーカーとの見分け方の例として、利用者らの団体が作ったマークが付いていることがあるとしている。

### 子ども用の車いす 駅・バスで手助けを 国交省が啓発ポスター

Tweet 2

2019年9月1日 朝刊



子ども用の車いすに温かい配慮を。国土交通省は、病気や障害のある子どもが使う車いすへの理解を広めようと、啓発ポスターを作った。形がベビーカーと似ているため間違われることが多く「まずは存在を知って」と担当者。全国の主要鉄道会社やバス会社などに配布し、掲示を呼び掛ける。

子ども用車いすは重く、折りたたむのも難しい。しかしベビーカーと誤認されて、混雑する交通機関の車内で「たたんでください」と言われたり、障害者用の駐車スペースの利用を断られたりするケースもあるという。

ポスターでは、ベビーカーとの見分け方の例として、子ども用車いす利用者らの団体が作ったマークが付いていることがあると紹介。駅や車内で困っている様子を見かけたら、声を掛けてみるよう促している。

同省担当者は「東京五輪・パラリンピックを一つのきっかけとして、車いすの利用者が気軽に外出できる環境づくりを進めたい」と話している。